

祈ってくださるイエス

ヨハネ 17 : 20 - 26



司祭 ヨハネ 井田 泉

2019年6月2日
復活節第7主日（昇天後主日）

奈良基督教会にて

言葉ではっきりと伝えなければなりません。とりわけ別れ
のとき、もう次の機会はないというとき、思いを尽くし言葉を
尽くして語られた。それが最後の食卓を弟子たちとともに囲ま
れたときのイエスさまの言葉でした。イエスさまの一言一言は遺
言であり、弟子たちの心にいつまでも刻み込みたい言葉です。

しかし弟子たちは、ここに至っても、イエスが語られる言葉
を十分には理解できていません。イエスをがっかりさせるよう
なことを言うのです。けれどもイエスはそれでも、弟子たちの
真心を感じて、それを汲み取っておられました。

言葉で伝えることが限界に達したとき、これ以上話しても無
理だと感じたとき、どうすればいいでしょうか。祈ることしか
ありません。それでイエスは祈られました。それがヨハネ福音
書第 17 章です。今日朗読したのはその後半の部分です。今日の
箇所の前ので、イエスは、弟子たちのためにこう祈られまし
た。

「17:12 わたしは彼らと一緒にいる間、あなたが与えてくだ
さった御名によって彼らを守りました。」

ずっとイエスは弟子たちのために祈りつつ、弟子たちを守っ
てこられたのです。

「13 しかし、今、わたしはみもとに参ります。」

「15 わたしがお願ひするのは、彼らを世から取り去ること
ではなく、悪い者から守ってくださることです。」

弟子たちは悪しき者によって攻撃される。誘惑され、危機に

さらされるのが見えています。しかし自分はまだ見える仕方では弟子たちを守ることはできない。弟子たちを愛するがゆえの心配と悲しみを抱えてイエスは祈っておられます。

「15 わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることでなく、悪い者から守ってくださることです。」

けれどもイエスはさらに将来を見つめておられます。この弟子たち、今は頼りない弟子たちの働きによって、その言葉によって、新しくイエスを信じるようになる人たちが必ず出てくる。将来の弟子たちのためにイエスは先に祈られます。

「20 また、彼らのためだけでなく、彼らの言葉によってわたしを信じる人々のためにも、お願いします。」

「彼らの言葉によって」 イエスご自身の直接の言葉ではない。しかしイエスに招かれイエスを信じ、イエスを宣べ伝えた人たちの言葉によって。最初の弟子たちの言葉を聞いて信じた人。その人たちの言葉を聞いて信じた人。その人たちの言葉を聞いて信じた人。ずっととぎれることなく語られ、伝えられ、信じて、今のわたしたちに至った。

ここでわたしたちが知りたいのは、最後の食卓においてイエスさまは、このわたしたちのために祈ってくださった、ということ。

「彼らの言葉によってわたしを信じる人々」 ほかの何かで

はない、このイエスを信じる人々のことをイエスは心に深くとめておられます。それは、つまりわたしたちのことです。ずっと後のわたしたち、わたしたちにみ言葉を語ってくれた人によってイエスを信じたわたしたち。このわたしたちがイエスを信頼する、イエスを慕う、イエスを信じる——そのことがイエスにとってうれしく尊いことなのです。信じるわたしたちの存在、わたしたちの信仰、イエスへの信頼——これがイエスの喜びなのです。

迷いがあった。疑いがあった。つまずきがあった。失望があった。それでもイエスを信じる。そのわたしたちのゆえにイエスは心を動かされ、感動し、涙ぐまれる。わたしたちをイエスが愛しておられるからです。

「彼らの言葉によってわたしを信じる人々のためにも、お願いします。」

イエスはわたしたちのために神に願っていてくださる。ちょっと神さまにお願いしておいた、という程度ではありません。切に願ってくださる。わたしたちのために神さまに嘆願してくださる。わたしたちは知らなかったかもしれません。たとい知らなくても、イエスはわたしたちのために祈っていてくださる。イエスの祈りがわたしたちを支えている。祈られて支えられているわたしたちです。

それではイエスはわたしたちのために何を祈ってくださるのでしょうか。

「21 父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。」

「一つにしてください」と言われていますから、わたしたちの間の一致を願い祈っておられるのは確かです。けれどもこれは表面的な一致、表向きの一一致のことではありません。

少し聞き慣れない言葉なので丁寧に耳を傾けてみましょう。

「あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように」

あなたとは父なる神さまです。神さまがわたし、イエスの内におられる。イエスの内に神さまが宿っておられ、イエスの内に神さまが生きておられます。

「わたしがあなたの内にいるように」

逆に、イエスは神さまの中に、神さまに包まれて生きておられる。

このように父なる神さまとイエスさまには深い一致、交流がある。その神さまとイエスさまの深い一致、交流の中に、「彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。」

イエスさまが保っておられる神さまとの深い交わり。その中

に、わたしたちを招き入れようとしてイエスは祈っておられる。

神とイエスの交わりの中にわたしたちが招き入れられる。すると何が起こるでしょうか。

第1に、神の命とイエスの愛がわたしたちに浸透します。命、愛、力、勇気、慰めがわたしたちを満たします。これ以上の幸せはありません。

第2に、神の意志、イエスの願いがわたしたちの中に流れ込んでわたしたちを動かす。この世に送り出す。この世界で働くようにさせます。

神の願いの実現のためのわたしたちの一致です。

祈りはまだ続きますが、今は最後の 26 節を読むことにしましょう。

「26 わたしは御名を彼らに知らせました。また、これからも知らせます。わたしに対するあなたの愛が彼らの内にあり、わたしも彼らの内にいるようになるためです。」

イエスはこれからも働きをやめられない。死んでも働きつづけられる。イエスは神のみ名を、神さまの存在とその愛と働きを、これからもわたしたちに知らせ続け、教え続けてくださる。

このイエスの祈りを最初の弟子たちは聞きました。どれほど理解したかはわかりません。けれどもそのことをはっきりとわ

からせてくださる聖霊が、やがて弟子たちに注がれるのです。

祈ります。

神さま、主イエスはわたしたちのために祈ってくださいました。そして今も祈っていてくださることを信じます。わたしたちの心の目と耳を開いて、主イエスが語られたことをはっきりと知り、また行うために、約束の聖霊をわたしたちに送ってください。主のみ名によってお願いいたします。**アーメン**